

下野市立南河内中学校

1 学校課題

思考力・判断力・表現力を高める授業の創造
～ 学び合う生徒・教師集団を目指して ～

2 研究計画

本校が目指す学校像は、「生徒一人一人が生き生きと活動する学校」、「生徒が『今日も楽しかった。明日も頑張ろう。』」と思える学校」である。そのためには、生徒が学ぶことの意味を把握し、学習意欲を喚起するような授業を仕組んでいくことが必要である。

それでは学習意欲を喚起する授業を仕組むにはどうしたらよいだろうか。それには授業で育成する力を明確にする必要がある。学校において単なる知識・技能を児童生徒に教授しただけでは、新しい時代を開く創造性豊かな人材は養成できない。人間は記憶再生装置ではないからである。人間が他の動物と比べて優れているのは知識・技術を活用させて、新しい科学や文化を生み出すことができることにある。この活用能力こそが平和で豊かな社会を築く人間の資質となる。そうした意味で知識・技術の教授型の授業から、思考力・判断力・表現力を高める授業に転換していくことが、真の学力向上には必要であると考え。こうした考えに立って、本年度は上記の学校課題を設定した。

3 研究計画及び実践内容

学習意欲の喚起を図るためには、「生徒一人一人が楽しく分かる授業」を教師が実践していく必要がある。そこで、以下の実践を重点項目として行った。

- (1) 全教科全授業において「ねらい」を提示し、授業の終わりには「振り返り」を行う。
- (2) 全教員による公開授業を行い、校内研究会を実施する。

時 期	研 修 会・アンケート	研 究 ・ 研 修 内 容
4、5月	研究推進委員会 職員研修会	本研究計画の立案・検討 学校課題の共通理解
6月12日	学力向上プロジェクト	本校の現状について、 学力向上アドバイザー 綱川 淨恵先生による全学級授業参観
6月20日	授業研究会（要請訪問）	数学科1年 授業者 小林 秀敏 指導者 下都賀教育事務所 神宮司 賢一郎 先生
7月2日	授業研究会（要請訪問・ 学力向上プロジェクト）	英語科1年 授業者 渡邊 沙織 指導者 下都賀教育事務所 稲葉 亜希恵 先生
7月23日	職員研修会（S&U）	学力向上アドバイザー 綱川 淨恵 先生 講話「授業力向上についての取組と教師としての学び」 講師 宇都宮大学教育学部教授 人見 久城 先生
7月30日	小中合同研修会	各教科の系統性と児童生徒の情報交換、南河内中学校 区の「家庭学習の手引き」について
8月19日・ 20日	学力向上プロジェクト	研究の方向と実践方法の確認、各教科における授業の 工夫改善など アドバイザー 綱川 淨恵 先生
9月3日	職員研修会	研究実践内容の検討、とちぎっ子学力状況調査・全国 学力学習状況調査の分析
9月11日	授業研究会（S&U）	道徳1年 授業者 米倉 一晃 指導者 宇都宮大学教育学部教授 人見 久城 先生
9月24日	職員研修会	講話「学力向上改善プランの実践について」 講師 学力向上アドバイザー 綱川 淨恵 先生

10月	生徒による学校評価アンケート	アンケートの分析
11月5日～ 12月19日	授業研究会	全教員による授業公開と校内研究会
11月26日	授業研究会（要請訪問）	理科3年 授業者 鈴木 芳孝 指導者 下野市教育委員会 田澤 孝一 先生
12月10日	授業研究会（学力向上プロジェクト）	国語科2年 授業者 福田 かおり 指導者 学力向上アドバイザー 綱川 浄恵 先生
12月	生徒による授業評価	授業評価集計結果の考察
1月末	学習アンケート	生徒の授業への取組と自己肯定感・有用感の分析
2月17日	学力向上プロジェクト	学力向上プロジェクトの成果と課題
2月	研究推進委員会	本研究のまとめ



【付箋に評価を書いてグループ学習】



【職員室の端の丸テーブルで楽しく研修中】

4 本年度の成果と課題

(1) 成果として

全教員による公開授業を行うことで、生徒が学び合う姿を見る機会が増え、自分の授業力を向上させるヒントをもらうことができた。例えば、理科の授業では、天体の動きを把握するための手作りの教具が生徒達の理解を助け、深めていること。また、グループで意見をまとめる際に、小さなホワイトボードを活用し、書いたり消したりしながら、生徒達が考えをまとめる活動は、他教科でも使えること。国語の「パネルディスカッション」の授業では、グループ発表がアリーナ方式で行われ、観察者①②にそれぞれの役割があることで、普段の授業では、ほとんど参加できない生徒も発表者への評価を付箋に記入し参加していたこと。英語の授業では、コミュニケーションをしたくなる教材が準備されていたことで、積極的に英語を話そうとする姿が見られたこと。美術や音楽、技術の授業を初めて参観したという声もあったこと。全教職員による授業研究会だけではなく、放課後20分程度での研究会を通して、教師たちが授業を見る目を養い、活発な意見交換がなされるようになったことがあげられた。

(2) 課題として

生徒による授業評価からも「授業のねらいが毎時間示された」ことについては、約90%の生徒があてはまると回答している。しかし「ねらい」が単に学習内容や行動目標になっていることも多く、「ねらい」をどう決めていくのかということが課題としてあげられた。また、1月に実施した生徒による「学習アンケート」の結果を見ると「自分はクラスの人役に立っていると思う」が38%、「自分には、よいところがあると思う」が49%と低い。自己肯定感・有用感を高めるような授業を全ての教科で実施することでもっと学力の向上が図られると感じる。生徒が「今日も楽しかった。明日も頑張ろう。」と思える学校を作っていくためにさらに教職員の授業力を向上させていきたい。